

# 厚岸町海事記念館



## 通信

2007.2.

No. 4

### 北海道博物館協会ミュージアム・マネジメント研修会を終えて !!

昨年10月26日、27日の2日間にわたり厚岸町において、平成18年度北海道博物館協会のミュージアム・マネジメント研修会(道東3管内博物館施設等連絡協議会主催)が開催されました。近年、博物館を取り巻く社会環境は厳しい状況にあります。各地の博物館では独自の取り組みをおこなったり、展示や教育普及活動などに苦心しています。今回の研修会では、第1日目に「魅力ある博物館創りを考える」をテーマに、次のとおり講演と事例発表が行われました。

基調講演「ふしぎからはじまる < 科学 > との出会い」

旭川市科学館館長 佐々木恵一氏

事例発表1「遊学館とは～魅力ある展示手法・教育プログラムを目指して～」

釧路市こども遊学館学習担当 高橋香織氏

” 2「あなたにとって博物館とはどのような場所ですか?～山脈館で“魅力”について考える」

日高山脈館学芸員 小野昌子氏

講演、事例発表後は、討論会へと移り、博物館において集客力を高めるためには現状の分析が重要であることや来館者をその後もさらに取り込んでいくためにはどうすればよいのかなど、博物館が直面している現状や課題について活発な意見が交換されました。2日目は海事記念館や郷土館、太田屯田開拓記念館といった博物館施設を見学するとともに、史跡国泰寺跡や太田屯田兵屋など、厚岸町所在の文化財にふれていただき、2日間の日程を終えることができました。

太田屯田兵屋を見学する参加者



右から、高橋香織氏、佐々木恵一氏、小野昌子氏、橋本正雄氏(司会:釧路市立博物館)





厚岸町港町のアッケシソウ栽培地

これまでも「海事記念館通信」にたびたび書いてきましたが、昨年町内港町において新しくアッケシソウを栽培してきました。土地の造成や種まきなどは平成17年の暮れに行ったのですが、実際にアッケシソウが発芽してくれるか心配でした。

5月のゴールデン・ウィークの頃から発芽が始まり、夏の暑い時期にはほぼ毎週、厚岸湖の水をポンプで汲み上げ、散水しました。土は塩分を含んでいる厚岸湾の浚<sup>しゅんせつど</sup> 渫土ですが、時間が経つと塩分に強い雑草が生えてしまいます。この雑草の駆除やゴミ拾いなども行いながら、なんとか秋には赤く色づいたアッケシソウを見ることができました。実を言うと、栽培当初は本当にアッケシソウが生えて、色づくのか心配だったのですが…。

もちろん、私たちだけの力ではありません。ボランティアで栽培地のゴミ拾いや造成地の手入れしてくれる方などもいらっしゃって、頭が下がる思いでした。

このように、なんとか一年目を無事終えたわけですが、今年はさらに面積を4倍に増やすことになりました。すでに昨年の暮れには造成作業を完了し、敷地内には浚<sup>しゅんせつど</sup> 渫土も投入しました。

今後も、随時アッケシソウの栽培状況をお知らせしますので、実際にアッケシソウをご覧になりたい人はぜひ港町のアッケシソウ栽培地に足を運んではいかがでしょうか。



4面に広がったアッケシソウ栽培地

## N響プラネタリウムコンサートを開催!



11月17日、N響プラネタリウムコンサートが開催されました(N響プラネタリウムコンサート実行委員会主催)。海事記念館プラネタリウム室の星空のもと、来場者はNHK交響楽団のメンバーによる弦楽四重奏を楽しみました。

## クリスマスにアイス・キャンドル作り!



海事記念館では、12月23、24日の両日、牛乳パックを利用したアイス・キャンドル作りをおこないました。1日目は、牛乳パックの中に空き缶を固定して、そこに色の付いた水を注ぎ一晩凍らせます。これがロソクを立てる氷の器になります。2日目には、その氷から牛乳パックと空き缶を取り外し、ロソクを立てて完成となります。みんな、ロソクの火を灯すことができましたかな?

## 文化財係 古文書教室「『日鑑記』～儀式と年中行事～」

昨年11月25日(土)、海事記念館において平成18年度古文書教室を開催しました。釧路短期大学教授で同大学の生涯教育センター長でもある佐藤宥紹氏を講師に、国の重要文化財に指定されている『日鑑記』をもとに、江戸末期の国泰寺の日々の暮らしぶりやそこに描かれている儀式や年中行事について学びました。講義の終わりには佐藤氏から「この古文書教室を文化財通訳養成講座と位置づけ、町民のみなさんに町にある文化財に直接ふれる機会にし、文化財を解説(通訳)できる人たちを養成したい。そして、文化財を生かすことにより厚岸町を訪れる観光客の滞在時間をより延ばすことができるのではないか」との提言もいただきました。

私たちの町に伝わる『日鑑記』などの文化財をいかに後世に残し、また生かしていくのか。それを担うのが今を、そしてこれから生きていく私たちの役割なのではないでしょうか。

参加者に語りかける佐藤宥紹氏



## 特別展「写真のなかの厚岸」展を開催中!!

2月3日(土)から3月21日(水)まで、平成18年度海事記念館特別展「写真のなかの厚岸」展を開催しています。

明治末期から大正期にかけて、厚岸の街並みや風景を写しだした数々の写真が撮影されました。それらの写真は、『東宮殿下行啓記念北海道厚岸写真帖』(明治44年刊行)や『釧勝根北写真帖』(大正3年刊行)、『皇太子殿下北海道行啓記念厚岸写真帖』(大正11年刊行)などに収められたほか、「厚岸名所」などと題して絵はがきとしても残されています。その写真は当時の厚岸を知ることのできる貴重な資料といえます。また、現在、海事記念館には、たくさんのみなさまのご理解、ご協力によって、写真資料の寄贈や提供をいただいています。



大正初期の厚岸(本町側)  
(『釧勝根北写真帖』大正11年より)



現在

今回の特別展では、これら写真資料の中から、今では見ることのできない海辺の風景やサン<sup>カス</sup>マ粕の加工作業、戦前の街並みなどを中心に展示しています。現在の厚岸の風景がどのように移り変わってきたかを見学して下さったみなさんに少しでも興味を持っていただければ幸いです。昔の記憶を風化させるのではなく、写真のなかの厚岸に思いを寄せ、これからの厚岸について考えてみるのもいいのではないのでしょうか。

【 会 期：2月3日(金)～3月21日(水・祝日)  
観覧時間：午前9:00～午後5:00  
会 場：海事記念館1階会議室  
料 金：入館料のみ～大人210円(高校生以下無料) 】

### 編集後記

町内の写真を撮っていて本当に街並みの移り変わりは早いものだと痛感しました。今回の特別展では昔と今とを対比できるよう努力したのですが、特に戦前・戦中の写真やふだんの暮らしがわかる写真が少なく、反省しているところです。今回の展示をきっかけにみなさんも家に残された写真をもう一度見直して見てはいかがでしょうか。風景だけではなく、日々の生活が

「厚岸町海事記念館通信」第4号 2007.2.発行  
【編集・発行】  
厚岸町海事記念館  
〒088-1128 北海道厚岸郡厚岸町字港町50番地1  
Tel/Fax (0153)52-4040

写っている写真など、古い写真がありましたら、ぜひ海事記念館にご一報を。

(文責：車塚)